

完全には走らなかつた六甲全山縦走路

近藤浩平 (宝塚市仁川台三 13歳)

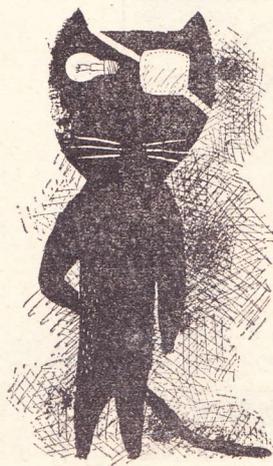


Illustration by Hamno Sugitara

六甲全山縦走、距離五六^{キロメートル}、標高差約二〇〇^{メートル}、一般所要時間一四〜一六時間。この縦走路を踏破したのは二回目だ。今回は宝塚からの逆縦走。以前、塩屋から一九時間四〇分を費やした時は、小学生ばかり五人で、歩くだけがやっとだった。十一月の寒い時だった。今回は(54年)単独、しかも六甲全山縦走をやるつもりはなかつた。

「ちょっと六甲を走ってくる」

二月二十五日の朝、「ちょっと六甲の方を走ってくる」と、家を出た。電車で宝塚へ。宝塚駅から八時四〇分ごろ走り出す。まずはゆっくりと。運動靴に小さなリュックサックといういでたちだ。武庫川を渡り急な住宅地の中を駆け登る。林の中の車道を登りきると塩尾寺に着く。ここでちょっと一休み、九時五分。宝塚から二五分。普通なら四〇分から一時間はかかる。ここから花崗岩のサラサラの急坂にな

る。林の中、北の方には北摂、丹波の山が見える。雲が低い。やがて平坦になり、砂山権現を通過し、突っ走って岩倉山山頂へ。さらに、平坦な林の中の細い縦走路を走り続ける。快調だ。ゆずり葉山、岩原山の南を巻く。南には逆瀬川をはさんで樫方峠、その向うに海が見える。車の音が聞こえる。ここは車道が通っている。北は船坂、南は西宮だ。車道を渡って、大平山の登りにかかる。急な坂を登り、山火事の跡に出る。あたりは黒くこげた木がたおれている。ここは去年山火事のあった所である。坂を登りきると、また車道、横切って小さなビークをこし、中継所のある大平山に着く。

紅茶を飲んで休憩する。北には、どこまでも山が続く。北摂の剣尾山が目立つ。西播丘陵と北摂との間には三田盆地がポツンとあり、その向うに白髪岳が見える。寒々とした曇り空だ。北はすべて緑なのに、南の方は山麓から海まで市街地が埋めつくさ

れ、海は灰色、空も灰色、灰色ばかり。六甲の北と南とは、まったく別世界のようだ。再び走り出す。七二六^{メートル}のピークの南面は笹ばかり。笹の中を一気に船坂峠へ駆け下る。人には会うもの、どんよりと曇り、あまりに静かだ。木立の中で音がした。ふと見ると、イタチがいた。落葉をカサカサとさせて走って行った。船坂峠から坂を駆け上って、水無山に着く。さらに走る。六甲山頂には、霧水があるようだ。笹の中をひた走る。ただガサガサと笹が音をたてる。どれほど時間が過ぎただろうか。ずつと走り続けている。霧が近くなり、山上の車道に出る。鳥居茶屋を通りつぎ、白水尾根を右に見て車道を走る。点々と霧水がある。六甲最高峰へ駆け上り、バラボラの北へ回りこむ。今日は寒い。

銅像台の跡に台座がある。この上でパンを一つ食う。霧が流れ、霧水の破片が飛んでいる。溶け始めているので、ぬれて困る。山頂の三角点は踏めない。米軍と自衛隊の

無線中継所があるからだ。しかし、この花崗岩の台座はそこより高い。標石が金網の中に見えていながら踏めないのは、はがゆい。そこには巨大なバラボラアンテナがある。宝塚から二三^{キロメートル}、標高差九〇〇^{メートル}、登り一〇〇^{メートル}。ここまで一時間五五分で来ている。時速七^{キロメートル}で走ったわけだ。急な所は走れないから、平坦地ではかなり速く走ったわけだ。

霧米林を駆けぬけ、凌雲台を過ぎ、ゴルフ場を過ぎ、山上街を走りぬける。サウスロードの階段を下り。袖谷峠を通り過ぎ、楽なアゴニー坂を登ると摩耶別山、ここから摩耶山まで一息だ。六甲山頂は見えず、山上西六甲も小さい。摩耶山まで宝塚から三〇^{キロメートル}、ここまで三時間一五分で来ている。二〇分ぐらい休憩しているから、時速一〇^{キロメートル}ぐらいで走っていることになる。

予定変更、塩屋まで行こか

もともと、この辺りでやめるつもりだったが、ほとんどつかれていないので、菊水

駆け下ると新しい橋の所に出る。以前は車道に降り、また登り直して、橋を渡る。橋

ふと『孤高の人』の最初の部分を思い出し

もともと、この辺りでやめるつもりだったが、ほとんどつかれていないので、菊水山ぐらゐまで行くことにする。天狗道に入る。左には神戸港を見下ろす。菊水山は、はるか向うに見える。六甲西端の鉢伏山、旗振山、鉄拐山など、気の遠くなるような遠さで、そこまで走れるなどと思えない。そのまた向うは淡路島である。あいかわらぐ曇り空。天狗道は急である。階段を下り、岩の上を走って、あるいは樹間を駆けぬける。布引は近い。稲妻坂を下ると地藏谷、堰堤を横に見て広い河原に下り着く。市ガ原まで平坦な道をさらに走る。

さすがに、ここまで来るとつかれる。布引谷を渡り、初めて歩く。大竜寺まで車道。ところどころ、のんびり歩く。「菊水まで行ったら、塩屋まで行かな、もつたいな。いっそのこと時間もあるから塩屋まで行こか、これやったらかなり早く行けるだろう」こんなことを考えて歩いてみると、大竜寺に着いた。パンを食う。「ま、後は長いのがやからそう急がんとこ」とつぶやきながら、どんよりと曇った天気、どうも日が暮れてしまいそうな気がする。まだ昼過ぎなのに。

鍋蓋山まで走ったり歩いたりしながら行く。左には始終、港と海と街が見える。このあたりは、もう低い。神戸の裏山にすぎない。鍋蓋からは登り降りのはげしく、走る気もしない。塩屋までまだ二〇〇ある。急な菊水山が目前に迫る。この菊水山、低いくせにバテる山。天王谷の有馬街道へ向けてジグザグの急坂を下る。菊水山が、高くなってくる。見上げるような所にある。

駆け下ると新しい橋の所に出る。以前は車道に降り、また登り直していた所だが、橋ができたため楽になった。全山縦走路は、日ごと楽になってしまいそうだ。城方越の岩場を右に見る。この辺は車駄天走りというわけには行けない。登るだけでもシンドイ。意外と早く山頂についた。この菊水山の山頂は草原、南面も草ばかりだが、急で南面は岩も多い。縦走路中、最もつかれる所だ。頂には、人が多し。背後の六甲、摩耶はもう小さい。やけに外人さんが多い。梯子、階段を下り切るとゴルフ場、しばらく走って川を渡り、神戸電鉄の無人駅、菊水山駅に着く。余力があるので、塩屋まで行くことにする。ここまで宝塚から四〇〇。普通一〇時間かかる。今は二時、五時間二〇分まで来ている。意外と早い。住宅地を通過し、高取山へ登る。もうつかれてあまり走れない。水もなくなってしまう。

高取山の山頂に着く。雲は低い。しかし寒くはない。人が多し。曇り空で六甲山頂にはその雲の底がかかり始めている。意外なほど遠くが見える。はるか南には友ガ島さえ見える。足元は神戸港、灰色の海が水平線まで続いている。空も灰色。どことなく寒そうに感じだ。淡路島も大きい。北は丘陵が続く。帝釈山塊(丹生山系)が小さな暗い山なみを見せている。近いうちに寒気団でも来そうだった。その数日後予想通り六甲は白くなった。

ふと『孤高の人』の最初の部分を思い出した。人はいても、自分一人だけが、ここにいるような気がした。そして、たった一人でここまで走って来たというのを思った。加藤文太郎が、この道を駆けたように自分もこの道を駆けていることを考えた。そして高取山を後にした。もう走るほど余裕はない。横尾山の登りにかかる。笹のある冬枯れの明るい林の中を足速に行く。須磨アルプスの岩尾根が意外にも大きく感じる。横尾山に着く。以前は、やぐらがあった。足も重くなったように感じるので少し休む。

少し立ち止り、しばらく海を見た。こんな風景は今まであまりなかった。人が多しのに静かだった。頂の下には神社がある。加藤文太郎もこの道……

新潟で唯一の登山専門店
全日本登山とスキー用品専門店協会加盟店

上越スポーツ

新潟県長岡市城内町1-1-10 (長崎屋前)
TEL 0258(35)5833 ●年中無休

ゴア・テックス製品が入荷しました。
雨具 ¥15,500
パーカ ¥16,600

気になる Downhill ダイナミックSKI ● The SKI
ラング ● ノルディカ
ジノトラバルト SKI パンツ ● パート、スピードマンペンディング

さわめつけHDウェア フィルソンWマッキノウ・ウッズ・シェラ
デザイン ● パナエクイメント ● ノース
フェイス ● ロジャーエーガ ● エディーパワーオールパーパスJAC ●
エディーパワーポケットブルダウンJAC ● キャンプ7

ブーツいろいろ Red Wing ● クオーディ ● ダナー ●
ソレル ● トップサイダー ● チペワ

冬のハイキング XCスキー Set ¥26,000 均 ● スノーシュー ●
軽量山スキー Schilaufer ¥15,000

Tamaki sports メールオーダー可
送料実費

☎101 東京都千代田区内神田3-12-9 ☎03(252)9241